

傍聴者編
Part2

議会が **もっと** / 近くなる

市民の声

9月議会も、傍聴にいらした方にお聞きしました。



みんなが議会に足を運びましょう

松縄正喜さん (富永)

新庁舎を見学がてら、議会を初めて傍聴してみました。「難しいやりとりが多く、分かりにくい」というのが印象です。

議会は住民のためのものです。分かりやすく、気軽にオープンな議会へと変わっていくことで、多くの住民が関心を持ち、議会に足を運び、それによって議会の緊張感も高まり、質の高いやり取りが期待できると思うのです。そしてそれは、住民の利益につながります。

また議員には、個々に議会情報の発信に努めること、取り上げる質問の関係者への呼びかけが求められると思います。今後の議会がどのように変わっていくのか、関心を持っていたいと思います。

議論する場の神聖さを感じました



川上修子さん
(吉田法花堂)

新しい庁舎になって、初めて一般質問の傍聴に来ました。第一印象として、広く立派な議場に感嘆し、多くの市民が傍聴に来られているのかと思いましたが、意外と少ないんですね。

質問者が、自分の持ち時間を使い切って質問している姿に、勉強しているのだなと思いました。ただ、質問内容が専門用語になると、質疑の内容も理解しにくいので、用語解説があったら聞きやすく理解しやすいですね。

議員・職員が入退室の時に一礼する姿を見て、市政を議論する場としての神聖さを感じました。また、最近の議会だよりは、明るくて見やすくなったと感じます。これからも議員の活動、言動にも今まで以上に関心を持っていきたいと思っています。

議会報はとても分かりやすくなりましたね



星野菊夫さん (寿町)

最近の議会報は、字の読みやすさに配慮が感じられるとともに、議員の賛成反対の意見が掲載されるようになり、興味が持てるようになりました。

また、今年6月に議会傍聴に行った際、発言者の声がマイクで拾いきれずに聞こえにくかったのですが、9月議会では、それがある程度改善されていたこと、議員と市当局とのやり取りに「一問一答方式」が取り入れられたことなど、議会も変わって来ていると感じられます。特に、質問回数に制限のない質問方式は、とかく答弁をあいまいにしがちな市当局を追求できるという点で評価できます。

今後は、若い方が政治や行政に関心を持つ取り組みを、大いに期待しています。

編集後記

映像配信がスタートとなった9月定例会は、緊張感が漂う中、市民の皆さまの生活に関わる諸課題について、さまざまな議論が行われました。

今号のつばめ市議会ノートブックに、議会報等特別委員会の視察レポートを掲載しています。

編集委員になって2年目になりますが、今後の議会だよりの編集に携わる上で、大変参考になることばかりでした。

これからも、編集委員の皆さまと力を合わせて、より分かりやすく、親しみやすい議会だよりの編集に取り組んでまいりたいと思っています。

樋浦恵美

【議会報等特別委員会】

委員長：渡邊雄三 副委員長：齋藤紀美江

委員：小林由明 樋浦恵美 タナカ・キン 長井由喜雄 齋藤信行

9月定例会から映像配信スタート



※15ページをごらんください

今号の表紙

「おぼる月の光を浴びる五合庵」です。良寛和尚が寛政8年(1796)から乙子(おとこ)神社の草庵へ移るまでの約20年間住んでいた場所と言われています。

秋の夜長、月明かりを楽しむのも一興! 秋空に澄み切った星空を見上げてはいかがでしょうか?

新庁舎になったことに伴い、住所・電話番号・FAX番号が変わりました